

事業事前評価表

国際協力機構 経済開発部
農業・農村開発第二グループ第四チーム

1. 案件名（国名）

国 名：コートジボワール共和国（コートジボワール）

案件名：和名 持続可能なサプライチェーンを通じた国産米振興プロジェクト

英名 The Project for Local Rice Promotion through Sustainable Supply Chains

2. 事業の背景と必要性

（１）当該国における稲作セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
コートジボワールは温暖で降水量も多く、農業に適した自然条件を有している。農業は GDP の 15.9%を占め、労働人口の 46.3%が従事している。コメは主要な主食の一つであり、人口増加に伴い需要が急速に拡大していることから、近年では国内消費の半分以上を輸入に依存しており¹、食料安全保障の観点から課題となっている。

コートジボワール政府は農業の生産性向上と流通の効率化を柱とする開発政策を進めており、特にコメについては国内需要を満たす競争力ある産業の育成を目指している。国家稲作開発戦略では、生産の拡大だけでなく、加工・流通・販売までを含めた一体的な強化（サプライチェーン強化）が重視されている。

このような状況の下、JICA は「国産米振興プロジェクト（PRORIL）」（2014-2020）および「国産米振興プロジェクトフェーズ 2（PRORIL2）」（2021-2026）を通じて、栽培技術の改善、種子の質の向上、関係者間の連携強化などに取り組み、生産量・品質の向上に一定の成果を上げてきた。一方で、融資の返済率が低く金融面の仕組みが十分に機能していない、精米業者や販売業者の経営・財務管理能力が不足している、品質のばらつきにより高品質米の安定供給が難しい、といった課題が残されている。

これらの課題に対応するためには、生産者だけでなく、加工・流通・金融などを含む関係者全体の能力を高め、安定した供給体制を整備する必要がある。本事業は、サプライチェーン全体の強化を通じて高品質な国産米の安定供給を実現し、販売量の増加と自給率向上に貢献するものである。

（２）農業セクターに対する我が国及び JICA の協力方針等と本事業の位置付け、課題別事業戦略における本事業の位置付け

本事業は、日本の対コートジボワール国別開発協力方針における重点分野で

¹ 2025 年～2026 年のコメ消費量 295 万 t のうち、約 54%の 160 万 t は輸入米の消費と予測されている。出所：Foreign Agricultural Service, United States Department of Agriculture, Global Agricultural Information Network, *Grain and Feed Annual – 2025*, URL : https://apps.fas.usda.gov/newgainapi/api/Report/DownloadReportByFileName?fileName=Grain%20and%20Feed%20Annual_Accra_Cote%20d%27Ivoire_IV2025-0007.pdf

ある「持続的な経済成長の推進」に合致する。特に、農業を中心とした産業振興と、加工・流通・金融を含めたバリューチェーンの強化が重視されており、本事業はその具体化に資するものである。

また、本事業はアフリカにおける稲作振興の国際的取り組みとも整合しており、コメ生産の拡大と自給率向上に貢献する。さらに、食料安全保障（ゴール 2）、気候変動対策（ゴール 13）、生態系保全（ゴール 15）といった SDGs の達成にも資するものである。

（３）他の援助機関の対応

コートジボワールでは、複数の開発機関がコメ産業の支援を行っている。

世界銀行は「Projet de Développement des chaines de Valeurs Vivrières（PDC2V）」（2021-2027）において流通業者を中心としたサプライチェーン強化や金融支援を実施しており、アフリカ開発銀行は「Projet pôle agro-industriel Bélier（2PAI-Bélier）」（2017-2025）や「Projet de Pôle Agro-Industriel dans le Nord（2PAI-Nord）」（2021-2028）において、灌漑施設や農業拠点の整備を進めている。さらに、ドイツ国際協力公社（GIZ）や地域機関（ECOWAS）も技術支援や政策提言を行っている。

本事業はこれらの取り組みと連携し、既存の支援を活用しながら効果の発現を図るものである。

3. 事業概要

（１）事業目的

本事業は、対象国産米サプライチェーン（以下「SC」という。）を対象に、SCの構成アクターの事業運営強化及びアクター間の連携強化、融資業務関係者の能力強化及び生産者の金融リテラシー向上、適切な収穫後処理を通じた粳米及び精米の品質向上、事業成果の定着と持続性確保に向けた体制構築を図ることにより、効率的かつ持続可能な国産米 SC の構築及び高品質な精米の安定的な供給を図り、もって国産米の販売量の継続的な増加に寄与するもの。

（２）プロジェクトサイト/対象地域名

選定されたコートジボワール産米ブランドの SC 関係者の所在地²

（３）本事業の受益者（ターゲットグループ）

直接受益者：選定された国産米ブランドの SC 関係者（流通・販売業者：5～

² 本事業では、国産米の SC の下流にあたる流通・販売業者をエントリーポイントとして対象となる流通・販売業者をまず選定し、選定された同業者に精米を供給する精米業者、粳米の生産者（個人農家及び農家グループ）で構成される SC を特定し、特定された SC の各アクターをターゲットグループとするアプローチを採るため、対象地域は事業開始後に選定された SC の各アクターの所在地となる。

8 業者、精米業者：7～10 業者、生産者：30～50 農家グループ
（農家 600～1,000 世帯）、金融機関：1～2 機関、農業機械サ
ビスプロバイダー：約 5 社）、実施機関職員（約 10 人）
最終受益者：対象 SC 以外のコメ生産者、精米業者、流通・販売業者

（４）総事業費（日本側）
約 3.2 億円

（５）事業実施期間
2027 年 1 月～2030 年 1 月を予定（計 36 カ月）³

（６）事業実施体制
本事業の実施機関はコメセクター開発機構（Agence pour le Développement de la Filière Riz。以下「ADERIZ」という。）であり、プロジェクト・ダイレクターには ADERIZ 総裁、プロジェクト・マネージャーには ADERIZ 企画部長、カウンターパート人員（担当分野：バリューチェーン/モニタリング・評価、農業金融、収穫後技術、総務・財務）には ADERIZ 職員または農業・農村開発・食料生産大臣付食料生産担当省（Ministère délégué auprès du Ministre de l’Agriculture, du Développement Rural et des Productions Vivrières, chargé des Productions Vivrières。以下「MDMINADERPVPV」という。）職員がそれぞれ配置される。

さらに、本事業の最高意思決定機関であり、事業全体の運営管理を統括するマネジメント組織として合同調整委員会（Joint Coordinating Committee。以下「JCC」という。）を設置し、JCC 議長は MDMINADERPVPV からの代表者が務める。

加えて、本事業のパートナー機関として、成果 1 を担当する経営・財務管理能力強化研修の提供機関、成果 2 を担当する民間金融機関も各成果の活動実施に関わる（各機関は事業開始後に正式に決定される）。

（７）投入（インプット）

1）日本側

- ①専門家派遣（合計約 35 人月）：チーフアドバイザー／バリューチェーン、ビジネス開発サービス、農業金融、収穫後処理
- ②機材供与：プロジェクト活動の実施に必要な機材（水分計等）

2）コートジボワール側

- ①カウンターパートの配置：（６）に記載のプロジェクト担当者を配置
- ②案件実施のためのサービスや施設、現地経費の提供：ヤムスクロ、アビジャンにおけるプロジェクト用執務スペース、家具、備品、研修実施経費等プロジェクト活動の実施に必要な経費

（８）他事業、他開発協力機関等との連携・役割分担

１）我が国の援助活動

本事業の先行案件である PRORIL 及び PRORIL2 では、金融やポストハーベスの取り組みを実施してきており、それらの活動で培われた金融に関する知見や試験的に導入された資機材（平型乾燥機）を本事業でも活用する。

また、無償資金協力「コートジボワール国稲作分野における機械化サービス向上計画」（2024 年 G/A 締結）で供与された農業機械による農業機械サービスは、本事業で対象とする SC のコメ生産者による活用が期待され、機械の利用による生産量の増加および品質の向上という相乗効果が見込まれる。ガーナを拠点としつつコートジボワールも協力対象とする「持続的農業機械化促進専門家」（2025-2027）により、その活用に関するフォローアップを実施し、機械が故障した際のダウンタイムの減少に伴う機械サービスプロバイダーの経営改善や農家による機械アクセスの向上も期待される。

２）他の開発協力機関等の活動

上記「２．（３）他の援助機関の対応」に記載の世界銀行の PDC2V やアフリカ開発銀行の REWARD 等が対象とする SC の各アクターを本事業の対象候補とすることにより、精米業者が他開発協力機関による精米機や金融へのアクセスへの支援を受けつつ、本事業によって経営能力や SC の他のアクターとのつながりを強化することによる相乗効果が期待される。また、SC 関係者間の連携強化については、コメセクターの業界団体である Organisation Interprofessionnelle Agricole de la filière Riz（OIA-RIZ）との連携も期待される。

（９）環境社会配慮・横断的事項・ジェンダー分類

１）環境社会配慮

①カテゴリ分類：C

②カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2022 年 1 月）上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

２）横断的事項

気候変動への適応として、SSP2-4.5 シナリオの下では、2040 年から 2059 年にかけて 10 月の降水量が 5.45 mm 増加すると予想されており⁴、これは第二期稲作サイクルの収穫期における降水頻度の増加を意味する可能性がある。本事業では平型乾燥機の普及を促進することにより、あらゆる天候下における籾米の乾燥工程を可能にし、気候変動への適応に積極的に寄与する。

生態系への影響への対応として、コメ生産者や精米業者による収穫後処理の強化は収穫後の損失を低減させ、また籾殻の二次利用は農業廃棄物の削減につながると期待されており、これらはいずれも循環型経済への取り組みにつながる

⁴ 出所：World Bank Group, URL：[Climate Change Knowledge Portal | Climate Change Knowledge Portal](https://climateknowledgeportal.worldbank.org/)

る。さらに、乾燥工程の副産物である籾殻の炭化物は土壌の肥沃度を高めるために利用でき、それによって間接的に生物多様性の保全に寄与する可能性がある。

3) ジェンダー分類：【ジェンダー案件】GI (S) ジェンダー活動統合案件
＜活動内容/分類理由＞

本事業の先行案件である PRORIL2 では、コメ生産者向けの金融教育研修では女性の参加割合が低かった点が指摘されている。本事業では、成果 2 の活動であるコメ生産者向けの金融教育における家計管理研修において、女性の参加を要件に加えている。さらに、コートジボワールの稲作では田植え、除草、収穫作業における女性の役割が大きいが、成果 4 の活動に含まれる農業機械化の体制づくりに向けた取り組みは、女性の稲作労働における負担軽減につながるといえる。

(10) その他特記事項
特になし

4. 事業の枠組み

(1) 上位目標

国産米の販売量が継続的に増加する。

指標及び目標値：

1. 2030 年から 2033 年にかけて、対象 SC におけるコメの販売量の毎年の増加率が XX% 以上になる。
2. 国産米の販売量を下げようとする外部からのショックがあった場合でも、対象 SC 全体でのコメの販売量の減少が XX% を超えない。
3. コートジボワールの関連機関が、コメセクター関係者に対して成果 4 で特定された研修を継続的に提供する。

(2) プロジェクト目標

効率的かつ持続可能な国産米の SC が構築され、高品質な精米が安定的に供給される。

指標及び目標値：

1. 対象 SC における流通・販売業者による精米の年間販売量が、プロジェクト開始時と比べて増加する。
2. 対象流通・販売業者による月間精米販売量の変動がプロジェクト開始時と比べて減少する。^注
3. プロジェクト終了時点で、対象 SC における精米業者の少なくとも XX% が目標品質のコメに関する基準（1. 完全穀粒：60% 以上、2. 変色穀粒：2.5% 未満）を満たす。

注：指標 2 は対象流通・販売業者の各年の月次販売量の標準偏差に基づいて算出する。

（３）成果

成果 1：【サプライチェーン】サプライチェーンの構成アクターの事業運営能力及び各アクター間の連携が強化される。

成果 2：【金融】融資業務の関係者の能力が向上し、金融リスクが低減される。

成果 3：【生産物の品質】適切な収穫及び収穫後処理の実践を通じて粳米及び精米の品質が向上する。

成果 4：【持続性に向けた関係者の能力強化】国家レベルの体制を通じたプロジェクト成果の定着と持続性が確保される。

（４）主な活動

＜成果 1 の活動＞

- 1.1. ビジネス管理研修の実施方法を策定する。
- 1.2. 精米業者及び農業機械サービスプロバイダーの経営・財務管理能力を向上させるための研修を実施する。
- 1.3. 精米業者、流通・販売業者、農業機械サービスプロバイダーのビジネス運営体制の改善を支援するためのフォローアップ活動を実施する。
- 1.4. 精米業者及び農業機械サービスプロバイダーの経営に関する優良事例を収集し、活動 1.2 の研修で共有する。
- 1.5. 対象 SC の関係者間で情報共有及び次期作付の計画策定のための会議を開催し、関係者間の連携と協力を強化する。
- 1.6. 対象 SC の関係者間の現在のビジネス関係を評価し、関係が不安定になる原因となる問題を特定する。
- 1.7. 契約条件をより明確に規定するため、関係者間の契約や取り決めの内容を既存の優良事例に基づき改善する。
- 1.8. コメ SC における商取引に関する紛争の仲裁制度について協議する。

＜成果 2 の活動＞

- 2.1. 既存資料に基づき、パートナー金融機関によるコメセクター向けの金融教育資料の改善を必要に応じて支援する。
- 2.2. 金融機関と提携して対象 SC のコメ生産者を対象に家計管理を含む金融教育研修を実施し、同研修への女性の参加を要件とする。
- 2.3. 1 機関以上の金融機関と関係者間の融資契約を締結する。
- 2.4. コメ生産者が金融機関への融資申請を円滑に行えるよう、生産状況や精米業者との取引記録の作成を支援する。
- 2.5. 金融機関の間で、コメセクターにおける金融の経験や PRORIL のプロジェクトから得られた教訓を共有するための情報交換会を開催する。

＜成果 3 の活動＞

- 3.1. 収穫後の粳米の適切な取り扱い及び乾燥方法について、コメ生産者及び精米業者向けの研修を実施する。
- 3.2. 収穫後の粳米の適切な取り扱い及び乾燥に関する情報や研修を精米業者がコメ生産者に自ら提供できるよう支援する。

- 3.3. 平型乾燥機の設置ニーズと適切な設置場所を検討する。
- 3.4. 平型乾燥機の製造、設置、運用に関するガイダンスを（職人・企業に対して）提供する。
- 3.5. 稲作研究所（LABORIZ）での試験結果に基づき、対象精米業者に精米の品質に関するフィードバックを提供する。

＜成果４の活動＞

- 4.1. プロジェクト終了後の活動実施に必要な予算を特定し、確保する。
- 4.2. 活動や研修セッションで使用する資料を作成または更新する。
- 4.3. ADERIZ 内の具体的な部門及びメンバーを提案し、プロジェクト終了後も活動や研修を継続するための業務範囲（TOR）を策定する（農業機械のスペアパーツの管理体制を含む。）
- 4.4. 選定されたメンバーに対し、プロジェクトの管理面及び技術面に関する研修を実施する。
- 4.5. コメ SC の強化に寄与する他のプロジェクトとの相乗効果を促進する。

5. 前提条件・外部条件

（１）前提条件

プロジェクトの実施に必要十分な数のカウンターパート人員が確保される。

（２）外部条件

＜成果に向けた外部条件＞

1. カウンターパートスタッフの頻繁な異動または離職が発生しない。
2. 対象地域の治安状況が悪化しない。

＜プロジェクト目標に向けた外務条件＞

1. 干ばつ、洪水、害虫などの自然災害により農業生産が深刻な被害を受けない。
2. コメ SC の経済構造（粳の価格、輸入米及び国産米の価格、投入資材の価格）に著しい変化が見られない。
3. 政治、経済、治安状況の悪化などの外的要因により、プロジェクト活動に深刻な支障をきたさない。

＜上位目標に向けた外部条件＞

1. コートジボワール政府がプロジェクトの成果４で規定された計画に基づき活動を実施する。
2. 干ばつ、洪水、害虫などの自然災害により農業生産が深刻な被害を受けない。
3. 米価が大きく変動しない。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

本事業の先行案件である PRORIL2 では、精米業者や流通・販売業者の経営・財務管理能力の低さとともに、対象 SC 関係者（コメ生産者、精米業者等）間での契約不履行が当該 SC 上の安定したコメ供給や取扱量の増大を阻害する要因となった。また、金融分野の取り組みではコメ生産者向けの融資返済率が 62.9%

に留まった一方、天水稲作生産者向けの短期の融資期間設定の融資商品では返済率が90%に達した。

上記を踏まえ、本事業の成果1において、精米業者、流通・販売業者の経営・財務管理能力の強化及びSC関係者間の契約履行を促進させるための活動を実施する。また、成果2の金融に関しては、天水稲作生産者のみならず灌漑稲作生産者に対してもリスクを軽減させるような短期の融資商品を提供する等、稲作リスクを査定して適切な融資商品を提供できるよう、提携する金融機関に対する支援を行う。

7. 評価結果

本事業は、コートジボワールの開発課題・開発政策並びに我が国及びJICAの協力方針・分析に合致し、コートジボワールの国産米SCの構成アクターの事業運営能力強化、金融リスクの低減、国産米品質向上、持続的な活動体制の構築によって持続可能な国産米サプライチェーンを構築し、国産米の販売量増加によって同国のコメの自給率向上に資するものであり、SDGsゴール2「飢餓撲滅、食料安全保障、栄養の改善、持続可能な農業の促進」、ゴール13「気候変動とその影響への緊急の対処」、ゴール15「生態系の保護、回復、持続可能な使用の促進、森林管理、砂漠化への対処、土地劣化の停止と回復、生物多様性の損失の阻止」に貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

4. のとおり。

(2) 今後の評価スケジュール

事業開始6カ月以内

指標の未確定目標値の設定

事業完了時

事後評価

以 上